

ガイドラインで示されている公立病院経営強化プランの内容	兵庫県地域医療構想（神戸圏域）における市民病院の役割
<p>(1) 役割・機能の最適化と連携の強化</p> <p>①地域医療構想等を踏まえた当該病院の果たすべき役割・機能</p> <p>②地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能</p> <p>③機能分化・連携強化（新設・建替等を予定する公立病院）</p> <p>(2) 医師・看護師等の確保と働き方改革</p> <p>(3) 経営形態の見直し⇒既に地方独立行政法人に移行済のため、記載不要</p> <p>(4) 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組</p> <p>(5) 施設・設備の最適化</p> <p>(6) 経営の効率化等</p>	<p>【市民病院の役割】</p> <p>市民病院においては、市民の生命と健康を守るため、救急医療や高度先端医療等政策的医療の充実を図る必要がある。</p> <p>【具体的施策】</p> <p>(ア)病院間の連携強化等による救急医療、感染症医療、災害医療等の充実</p> <p>(イ)メディカルクラスターとの連携による高度専門医療、治験・臨床研究の充実</p> <p>(ウ)神戸市の地域包括ケアシステム構築に向けた施策への貢献</p>

地方独立行政法人神戸市民病院機構公立病院経営強化プラン（第4期中期計画（R6～R10年度））の概要

○地域医療構想調整会議でご審議いただく項目

(1) 役割・機能の最適化と連携の強化

①地域医療構想等を踏まえた当該病院の果たすべき役割・機能

「救急医療、小児・周産期医療、感染症医療、災害医療、高度医療及び専門医療など政策的医療を行い、市民病院としての公的役割を果たす」

(ア) 病院間の連携強化等による救急医療、感染症医療、災害医療等の充実（政策的医療）

・救急医療

- 中 央：日本屈指の救命救急センターとして、全国トップレベルの応需率を維持するなど、あらゆる救急疾患から市民の生命を守るため全力を尽くす
- 西 部：地域の医療機関と連携した24時間体制の救急医療の提供、小児救急医療の安定的な提供に努め、地域の医療機関では困難な小児疾患に対応
- 西神戸：地域の医療機関と連携した24時間体制の救急医療の提供、神戸西地域の中核病院として、全日深夜までの小児救急医療をはじめ、地域における小児救急・小児医療の拠点機能を果たす

・小児周産期医療

- 中 央：総合周産期母子医療センターとして、高度な小児・周産期医療の安定的な提供
- 西 部：地域のハイリスク分娩に対応できる周産期医療を提供、市街地西部の中核病院として、地域需要に対応した小児医療の提供
- 西神戸：地域医療機関での受け入れが困難なハイリスク分娩への対応など、地域周産期母子医療センターと同程度の機能を果たす

・感染症医療 ⇒ (4) 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組に記載

・災害医療

- 共 通：平時からのBCP等の適宜見直しや訓練及び研修の取り組み、大規模災害発生時等には市、県及び地域医療機関と連携を図りながら市民の安全確保に率先して取り組む、大規模災害等に備え医薬品等を備蓄するなど必要な対策を講じる

(イ) 高度専門医療、治験・臨床研究の充実

- 中央：・市域全体の基幹病院として求められる高度な専門医療の提供
・神戸医療産業都市の中核機関として、最先端の治験・臨床研究の推進
- 西：・認知症疾患医療センターとして、進行予防から地域生活の維持まで必要となる医療を提供できる体制の構築
・高齢化の進んでいる地域の医療機関として、低侵襲医療とA D Lを重視し、地域の医療介護機関との連携による治し・支える医療の提供
- 西神戸：・地域がん診療連携拠点病院として、がん患者への幅広い支援、集学的治療の提供
・遺伝カウンセリング及び遺伝学的検査の実施、がんゲノム医療の推進
- アイ：・神戸医療産業都市における眼科高度専門病院として、眼科領域に関する臨床研究及び治験を通じた次世代医療の開拓
・診療・臨床研究を担う未来の医療人材の育成

②地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能

「地域医療機関等との連携強化を進め、患者が住み慣れた地域で医療や介護を受けながら自分らしい生活ができるよう、地域包括ケアシステムを推進する」

(ウ) 地域包括ケアシステム構築に向けた施策への貢献

- ・オープンカンファレンス等の積極的な実施などによる、顔の見える連携を強化、地域医療機関との役割分担のもと紹介、逆紹介の推進
- ・地域の在宅診療医や介護施設、訪問看護ステーション等との多職種での連携強化、患者やその家族等の状況に応じた入退院の支援を実施などによる、地域包括ケアシステムの推進・運用

③機能分化・連携強化（建替を予定している西市民病院の再整備について記載）

「政策的医療を充実させるなど、市街地西部の中核病院として担うべき役割の実現に取り組む」

- ・重症系病床を増床し、高度かつ専門的な医療及び急性期医療の対応強化
- ・新興感染症発生初期において患者受け入れが迅速にできるよう、柔軟に対応できるスペースの確保、動線に配慮した施設設備とするなど、感染症対応の強化を図る
- ・大規模災害時にも診療機能を継続できるような地震に強い免震構造等の導入、若松公園と病院の一体的な活用による、地域の災害対応機能の強化にも繋がる配置計画
- ・現病院から新病院への円滑な移転を行うとともに、新病院開院後の運営の早期安定化に努める

○その他、ガイドラインで示されている項目

(2) 医師・看護師等の確保と働き方改革

- ・資格取得支援の継続、「医師研究休職制度」等の活用による教育及び研修機会の充実、指導者も含めた次世代医療を担う人材の育成
- ・臨床研修医・専攻医に対する研修教育指導体制の充実、将来を担う若手医師の育成、地域における優秀な人材の育成と医療の質向上への貢献
- ・DXの推進や多職種連携によるタスクシフト・タスクシェアの推進、業務の効率化、労働時間の適正化など業務負担軽減を図り、働き方改革を推進

(4) 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組

- ・平時からの対応マニュアルの適宜見直しや施設整備、対応可能な職員の育成等を実施
- ・平時より標準的な予防策を徹底するとともに、地域医療機関への指導的役割を果たす
- ・新興感染症発生時は、市内唯一の第一種感染症指定医療機関である中央市民病院をはじめ、各病院がそれぞれの役割に応じて、市、県及び関係機関と連携しながら、感染症発生初期における患者受け入れなど、感染症医療に率先して取り組む
- ・新興感染症のみならず、既存の感染症に対しても関係機関と連携しながら各病院の機能及び特性を生かした取り組みを推進する
- ・西市民病院の再整備において、新興感染症発生初期において患者受け入れが迅速にできるよう、柔軟に対応できるスペースの確保、動線に配慮した施設設備とするなど、感染症対応の強化を図る

(5) 施設・設備の最適化（計画的な投資の実施、DX・情報セキュリティ対策の推進）

- ・高度医療機器等について、社会情勢や医療需要の変化等を踏まえ、収支の見通しを立てた上での計画的な投資の実施
- ・建物設備の経年劣化を踏まえ、社会情勢や医療需要に対応するため、中長期的な視点で保全・整備を検討・実施
- ・全国医療情報プラットフォームをはじめとする国の方向性を十分注視し、各病院の状況に応じ迅速に対応
- ・AIを搭載したシステムやRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）など、最新のデジタル技術の積極的な導入による医療機能や患者サービスの向上、職員の働き方改革等の推進
- ・情報統合基盤を経営分析や臨床研究などで積極的に活用し、市民病院間の医療情報の共有・連携をさらに進めるなど、医療情報システムの最適化に取り組む
- ・情報セキュリティリスクを回避・低減する技術的対策、定期的なネットワーク等の安全性の確認、BCP等の適宜見直しや訓練・研修の実施

(6) 経営の効率化等

- ・各病院が機動的かつ戦略的な病院経営を行い、経常収支（政策的医療にかかるものを除く。）において、収支均衡を達成する
- ・地域連携の強化による新規患者の受け入れなどにより、安定的に収入を確保するとともに、業務の効率化を通じて費用の最適化を図る
- ・収支改善や収入確保、経費削減に係る目標値の設定（経常収支比率、医業収支比率、修正医業収支比率、病床利用率、平均在院日数、新規患者数入院・外来）

以下、参考資料

①法人全体の概要

参考

基本理念		ビジョン（目指す姿）
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の立場に立って、人間性豊かであたたかく、質の高い医療を安全に提供することにより、市民の生命と健康を守る ・市民の信頼に応えるため、より多くの市民に効率的に医療を提供する 		<ul style="list-style-type: none"> ・政策的医療（救急医療、小児・周産期医療、感染症医療、高度医療及び専門医療など）の提供 ・新興感染症への対応、働き方改革の推進、医療DX・情報セキュリティ対策の強化 ・医療介護の連携強化を進め、地域包括ケアシステムを推進
大項目	中項目	主な取組
市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> (1)市民病院としての役割を踏まえた医療の提供 (2)地域医療機関との連携強化及び地域への貢献 (3)信頼と満足が得られる医療の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・政策的医療の提供、災害医療の提供、新興感染症等への対応 ・地域医療機関との連携強化及び地域への貢献 ・医療安全対策の徹底 ・クリニカルパスの積極的な適用 ・患者サービスの向上
業務運営の改善及び効率化	<ul style="list-style-type: none"> (1)優れた専門職の確保と人材育成 (2)効果的かつ効率的な業務運営体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の能力向上等への取り組み、医師等の働き方改革の推進 ・職員が意欲的に働き続けることのできる環境づくり ・医療や病院経営を取り巻く環境の変化に、迅速かつ効果的・効率的に対応した組織運営
財務内容の改善	<ul style="list-style-type: none"> (1)経常収支目標の達成に向けた収入確保及び費用の最適化 (2)計画的な投資の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各病院の機動的かつ戦略的な病院経営、収支均衡の達成 ・効率的な病床運営、診療機能強化等による医業収益確保 ・高度医療機器の計画的な投資の実施、建物設備の保全・整備の実施
業務運営に関する重要事項	<ul style="list-style-type: none"> (1)DXの推進 (2)情報セキュリティ対策 (3)西市民病院の再整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIを搭載したシステムやRPAの積極的な導入 ・BCP等の適宜見直しや訓練・研修の実施 ・救急医療、感染症・災害医療をはじめとした政策的医療の充実

②神戸市立医療センター中央市民病院

役割・機能、目指す姿

- ・日本屈指の救命救急センターとして、新興感染症拡大時等の非常時においても途切れることなく24時間救急医療を提供し、全国トップレベルの応需率を維持するなど、あらゆる救急疾患から市民の生命を守る。
- ・救急医療に携わる人材の育成を更に推進し、地域における救急医療向上への役割を果たす。
- ・地域医療機関との連携及び役割分担のもと、がんや脳血管障害、心血管疾患など様々な疾患について、本市の基幹病院として求められる高度な専門医療を提供する。
- ・神戸医療産業都市の中核機関として、最先端の治験・臨床研究を積極的に推進し、生命の維持と生活の質の向上につながる新たな医療を創造することで、市民の健康の増進と医療の発展に貢献する。
- ・総合周産期母子医療センターとして、産科合併症や合併症妊娠といった、母子にとってハイリスクとなる出産に対し、専門各科と連携して、小児・周産期医療を安定的に提供する。

基本情報

病床数	768床（一般：750床（高度急性期）、感染症：10床（一種2床、二種8床）、精神身体合併症：8床）	認定施設	<ul style="list-style-type: none"> ・救命救急センター ・総合周産期母子医療センター ・地域医療支援病院 ・災害拠点病院 ・第一種、第二種感染症指定病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・病院機能評価認定施設 等
診療科目（34科）	循環器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、腫瘍内科、膠原病・リウマチ内科、緩和ケア内科、感染症科、精神・神経科、小児科・新生児科、皮膚科、外科・移植外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、麻酔科、歯科口腔外科、病理診断科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、救急科、総合内科		

業務量等

	R4年度実績	R5年度見込	R6年度計画	R7年度計画	R8年度計画	R9年度計画	R10年度計画
経常収支比率（％）	109.4	95.2	98.6	98.9	99.5	100.9	102.2
病床利用率（％）	82.9	85.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0
新規患者数・入院（一般）（人／年）	19,496	-	22,895	22,895	22,895	22,895	22,895
新規患者数・外来（一般）（人／年）	74,319	-	75,838	75,838	75,838	75,838	75,838
入院単価（円）※税抜（R5見込のみ税込）	115,759	111,949	114,008	115,289	116,584	117,889	119,211
外来単価（円）※税抜（R5見込のみ税込）	29,099	30,597	31,554	32,817	34,129	35,494	36,914

③神戸市立医療センター西市民病院

参考

役割・機能、目指す姿

- ・地域医療支援病院として、医師をはじめとする全職種が救急医療の重要性を認識し、救急車搬送応需率を高い水準で維持し、市や地域の関係機関と連携しながら、地域全体の救急医療の充実をめざす。
- ・高齢化の進んでいる地域の医療機関として、低侵襲医療とA D Lを重視し、地域の医療介護機関との連携により治し・支える医療を提供する。
- ・市街地西部における周産期医療施設として、質の高い周産期医療を安定的に提供するとともに、ハイリスク妊娠・ハイリスク分娩等への対応も含めた役割を継続する。
- ・小児二次救急体制を継続し、小児救急医療の安定的な提供に努め、急性期疾患を中心に、地域の医療機関では困難な小児疾患に対応する。
- ・認知症疾患医療センターとして、認知症鑑別診断等を実施し、認知症に対して進行予防から地域生活の維持まで必要となる医療を提供できる体制を引き続き構築する。
- ・地域の医療機関と協力しながら、院内外の交流会、研修会を開催するなど、認知症疾患に携わる医療、介護等の多職種の連携を強化する。

基本情報

病床数	358床（一般：358床（高度急性期：21床、急性期：337床））	認定施設	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療支援病院 ・臨床研修指定病院 ・兵庫県肝疾患専門医療機関 ・兵庫県がん診療連携拠点病院に準じる病院 ・神戸市災害対応病院 ・神戸市認知症疾患医療センター ・病院機能評価認定施設 等
診療科目 (29科)	消化器内科、呼吸器内科、血液内科、リウマチ・膠原病内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、総合内科、腫瘍内科、精神・神経科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、血管外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、病理診断科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科		

業務量等

	R4年度実績	R5年度見込	R6年度計画	R7年度計画	R8年度計画	R9年度計画	R10年度計画
経常収支比率 (%)	105.8	88.7	99.8	99.7	99.7	99.9	94.4
病床利用率 (%)	71.8	77.1	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
新規患者数・入院 (一般) (人/年)	8,223	-	9,363	9,363	9,363	9,363	9,363
新規患者数・外来 (一般) (人/年)	17,174	-	19,200	19,200	19,200	19,200	19,200
入院単価 (円) ※税抜 (R5見込のみ税込)	67,284	67,313	68,455	69,140	69,831	70,529	71,467
外来単価 (円) ※税抜 (R5見込のみ税込)	17,056	18,765	19,024	19,785	20,577	21,400	22,078

④神戸市立西神戸医療センター

参考

役割・機能、目指す姿

- ・年間を通じて24時間体制で救急医療体制を確保するほか、救急医療に関連して高度急性期医療の充実を図り、地域住民が安心できる医療を提供する。
- ・小児の二次救急体制に参加するとともに、全日準夜帯（17時～24時）の救急受け入れを安定的に継続し、小児患者の救急車搬送についても可能な限り応需する。
- ・地域医療機関との連携及び役割分担のもと、ハイリスクな妊婦や救急時の受け入れをはじめ、地域の需要に対応した周産期医療を提供し、地域周産期母子医療センターと同程度の機能を果たす。
- ・地域がん診療連携拠点病院として、がん治療の専門性を最大限に活かし、地域医療機関とともに患者・家族が安心して生活できる診療連携体制を維持する。
- ・市内唯一の結核病棟を有する病院として、結核患者にも対応できる手術室や血液透析室などの設備を活用するなど、感染症対策の強化を図りながら引き続き総合的な結核医療を提供する。

基本情報

病床数	470床（一般：425床（高度急性期：56床、急性期：369床）、結核：45床）	認定施設	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県難病医療専門協力病院 ・国指定地域がん診療連携拠点病院 ・地域医療支援病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・厚生労働省指定臨床研修指定病院 ・神戸市災害対応病院 ・病院機能評価認定施設 等
診療科目 (30科)	救急科、総合内科、脳神経内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、免疫血液内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、腫瘍内科、緩和ケア内科、精神・神経科、小児科、外科・消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、形成外科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、病理診断科、歯科口腔外科		

業務量等

	R4年度実績	R5年度見込	R6年度計画	R7年度計画	R8年度計画	R9年度計画	R10年度計画
経常収支比率（％）	98.8	92.6	99.1	99.1	99.7	100.7	101.5
病床利用率（％）	73.0	80.6	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0
新規患者数・入院（一般）（人／年）	11,389	-	14,124	14,124	14,124	14,124	14,124
新規患者数・外来（一般）（人／年）	34,207	-	37,436	37,436	37,436	37,436	37,436
入院単価（円）※税抜（R5見込のみ税込）	78,143	80,101	82,277	83,100	84,006	84,845	85,693
外来単価（円）※税抜（R5見込のみ税込）	19,609	19,508	20,399	21,419	22,490	23,615	24,795

⑤神戸市立神戸アイセンター病院

参考

役割・機能、目指す姿

- ・地域医療機関との連携や機能分担を推進し、隣接する中央市民病院との連携を行い、安全で質の高い標準医療を提供するとともに、高度で専門性を必要とする眼疾患に対応する。
- ・開発を進めてきた i P S 網膜色素上皮細胞移植や視細胞移植などの再生医療や遺伝子検査・治療などの高度医療を世界に先駆けて提供するとともに、国内外への普及を支援する。
- ・より有効で安全性の高い治療をめざし、国内外の研究機関等と連携し、眼疾患に係る治験・臨床研究に積極的に取り組む。
- ・眼科領域における遺伝子検査・治療の臨床研究・治験の実施体制を整備するとともに、i P S 細胞治療の臨床研究においては、先進医療等の実用化を進め、神戸医療産業都市及び世界の眼科医療に貢献する。
- ・日常生活に支援が必要な患者について、ロービジョンケア施設である N E X T V I S I O N 等を適切に紹介しつなげることで、アイセンター全体として眼のワンストップセンターとしての役割を果たす。
- ・臨床、教育、研究それぞれに取り組む、日本の眼科の未来を担う人材の育成に取り組む。

基本情報

病床数	30床（一般：30床）
診療科目 （1科）	眼科

業務量等

	R4年度実績	R5年度見込	R6年度計画	R7年度計画	R8年度計画	R9年度計画	R10年度計画
経常収支比率（％）	101.0	101.5	101.6	100.4	100.6	100.5	100.4
病床利用率（％）	71.1	74.7	79.7	79.7	79.7	79.7	79.7
新規患者数・入院（一般）（人／年）	2,035	-	2,409	2,409	2,409	2,409	2,409
新規患者数・外来（一般）（人／年）	4,294	-	4,579	4,579	4,579	4,579	4,579
入院単価（円）※税抜（R5見込のみ税込）	84,759	86,334	93,459	93,459	92,612	92,588	91,774
外来単価（円）※税抜（R5見込のみ税込）	22,528	23,724	23,077	23,077	23,308	23,308	23,541